

ファッションが内的意識に与える影響

谷 彩羽

本論文は、服装や化粧、髪型など、「装い」によって自分らしさを表現することを「ファッション」と定義、また自分自身の中に存在する「感情」「知覚」「自己」等を内的意識と定義し、ファッションが私たちの内的意識に与える影響を明らかにすることが目的である。

ファッションは内的意識に肯定的にも否定的にも影響を与える。人は、現状の自分が理想の自分に近づく、もしくは一致することで自分に満足する。自分に満足すれば、情緒が安定し、意欲的に生活できるようになる。「装い」は自分がどんな人間であるかを確認し、そのイメージを強めたり、あるいは自分のイメージを変えるはたらきを持っている。だから、人は自分の理想に近づけるような「装い」をすれば、自分に満足し、心が健康でいられるのである。

自分が好きだと感じる装いは、自分の理想とする自己イメージを投影した装いである。人々は、流行や周囲に振り回されずにもっと自分の好きな服を着て、ファッションを楽しむべきである。

また、先行研究でファッションの定義は、基本的には外的要因から影響を受けた、またはそれを踏まえての内的な意識変化であると共に、服装・服飾・衣料、あるいは流行・はやりとして捉えられるといえよう。それに対し今回の研究は、ファッションとは、あくまで自分の内面から隆起するもので、流行とは物理的、意識的な距離を保つとした。本論文は、ファッションは外的要因からでなく、内的要因から生み出されるという新たな知見を付与することができる。